

令和7年度 寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は、本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、寄附者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、毎年、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、各講座の活動に対して評価を行い、適切でより良い講座運営が図れるよう取組みを進めております。

1 評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書をもとに、寄附者や寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、まとめたものです。

(1) 評価者

①寄附者（14団体 ※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（6名）

公立大学法人会津大学 理事 岩瀬次郎 氏

置賜広域病院企業団公立置賜総合病院

臨床検査部長 兼 輸血部長 兼 病理科科長 前田邦彦 氏

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福島県済生会

済生会福島総合病院 院長 星野 豊 氏

公益財団法人福島県産業振興センター 理事長 沖野浩之 氏

公益社団法人福島県看護協会 会長 佐藤博子 氏

認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会 山本佳子 氏

③学内評価者（4名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、

医療研究推進センター長、医療産業連携部門長

(2) 評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている（計画の100%超）

A：評価できる、適切である（計画の80～100%程度）

B：やや改善を要する（計画の60～80%程度）

C：改善を要する（計画の60%未満）

2 評価結果

評価者による評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については評価できる、適切であるとの評価をいただきました。

多職種に対する活発な教育活動、多数の学会・論文発表等の研究活動で「期待以上」と評価された講座もあれば、地域住民のニーズに沿った着実な診療実績で高く評価された講座もあり、それぞれの講座の特色があらわれた評価結果となりました。

講座名	評価区分	評価	主な意見
周産期・小児地域医療支援講座	研究	A	・ 県中部須賀川地域および県東部南相馬地域の周産期および小児に関する医療情報の収集やその解析が適切になされており、設置計画に沿った研究が着実に進められている。
	診療	A	・ 当該地域の周産期および小児医療の問題点に対応する適切な診療活動が、今後も持続的に展開されるよう次世代の育成や行政との連携も視野に入れた活動が期待される。
癌集学的治療地域支援講座	研究	S	・ 消化器癌に関しての、放射線治療などの集学的療法の有効性やそのメカニズムなど系統的に検討し、優れた成果を挙げている。
アスタチン核種治療研究講座	研究	A	・ 男性で罹患率の最も多い癌腫である前立腺癌の新薬につながる研究であり、その成果には大きな期待が寄せられる。
地域先端循環器病治療学講座	教育	S	・ 南相馬市立病院を主体とした相双地域の医療スタッフをおもな対象として、循環器診療や地域連携についてのセミナー、カンファレンス、啓発活動などが活発に行われており、適切な教育活動が行われている。
	研究	S	・ 循環器系疾患において基礎研究、疫学的研究、臨床研究など様々なレベルでの研究が実践されており、そのなかで、研究力の向上や充実がはかられ、地域における様々な課題解決にもつながり、本学や地域社会へ大きく貢献している。
	診療	S	・ 医師・医療スタッフの不足が続く、南相馬市及び相双地区の医療状況の解析を踏まえた形での診療活動が計画・実施されており、当該地域の循環器医療の問題点に対応する適切な診療活動が展開されている。
外傷再建学講座	教育	S	・ 会津外傷再建センターを中心に、整形外科領域の外傷診療についての幅広い教育活動が実践されており、とくに、若手医師や専攻医のみならず、看護師・理学療法士・作業療法士なども対象とし、さらに骨粗鬆症マネージャーの育成もおこなっており、多職種連携を意識した教育活動が展開されている点は地域社会での外傷医療の向上に大きく貢献している。
	研究	S	・ 整形外科領域の外傷診療に力点を置いた診療活動を積極的に展開し、その上で得られた課題について、研究を精力的に行い、多数の論文掲載および学会発表に結び付いている点は極めて高く評価できる。
	診療	S	・ 会津中央病院外傷再建センターを中心に整形外科領域の外傷診療に力点を置いた診療活動を積極的に展開し、ともすれば対症的・応急的になりやすい外傷への対応を受傷から後遺症の防止や機能再建にいたるまでの総合的な医療ととらえており、極めて独創的な活動が行われていると評価できる。
加齢性眼疾患治療学講座	研究	A	・ 本講座の研究活動は地域の診療の実践の上でなされたもので、その学術的な価値も高く、さらに、地域内の企業との共同研究もなされており、本学や地域社会への貢献も多大である。
地域集学的がん治療学研究講座	研究	B	・ 今後は学会発表・論文文化など外部発信の強化を期待する。CGP 検査開始後はデータ解析を進め、研究成果の可視化を図ることを希望する。

地域包括的癌診療研究講座	研究	B	・会津中央病院の「がん治療センター」を中心として、癌診療や、講演会・症例検討・セミナーなどを5年間にわたり展開したことにより、会津地方、あるいは山間地、過疎地における癌診療について、多くの知見が得られたと推察される。
	診療	A	2025年9月30日で終了となったが、会津地方の癌診療の現状の把握という意味では、診療における問題点や課題、さらにそれらを克服する上で、どのような対応が必要かなどについて、総括し、是非、今後の診療等に繋げていただきたい。
災害医療支援講座	教育	S	・幅広い対象者（医師、医師以外の医療従事者、地域住民、高齢者、患者と家族）に対して、工夫を凝らした講義を行っている。
	研究	A	・研究成果は着実に進められており、外部への研究成果の発信も見られる。
	診療	S	・6名の常勤医により浜通り医療体制の安定が図られ、心臓外科医の教授としての招聘も実現している。
地域救急医療支援講座	教育	A	・NOWプロジェクトにおける講演や中学生に対するAED講習会、消防学校における講義に加え、当該年度は看護師を中心とした病院職員向けのBLS研修指導を精力的に行っている。
	研究	A	・本研究活動が市の救急体制の質の向上に貢献している。
	診療	S	・令和6年度に構築した下り搬送システムにおいて、地域医療連携室が機能しない年末年始に院長LINEを活用するなどの改善を行っている。また、高齢者施設からの救急搬送の問題点についてセミナーを開催し関係者間における情報共有を行った点についても今後の活動に繋がるものである。
白河総合診療アカデミー	教育	S	・着実な教育活動を実施。教育活動は総合診療医のリクルートにも有効であることを実践し、専攻医2名の獲得は大きな成果である。
	研究	S	・本来診療と地域に根差した臨床疫学研究は表裏一体のものであるが、研究活動は大学と連携して行われている。研究結果は住民を対象とした講演会において発表し、プロジェクト参加者には個別の指導がなされており、地域社会にフィードバックされている。
	診療	S	・県南における本講座の診療活動の意義は大変に大きく、大いに地域社会への貢献に繋がっている。
心臓調律制御医学講座	教育	S	・医学部生（3年-6年生）、臨床検査技師、専門医、医療スタッフに対して、不整脈の基本からインターベンションの治療・効果まで着実に教育を実施している。
	研究	A	・Fibrosis-4と3Dマッピングシステムにより、肝線維化と左房低電位領域の関係を明らかにするなど着実な研究成果である。
	診療	S	・カテーテルアブレーション等カテーテル関連診に多くの実績。引き続き高度不整脈診療の中核として地域医療への貢献を期待する。
アートセラピー研究講座	研究	A	・設置目的に沿った適切な研究活動が展開されており、今後に期待できるユニークな講座である。
外傷学講座	教育	A	・計画に沿って医師、研修医、看護師に対して着実に実施している。

	研究	A	・研究計画に沿って研究活動が展開されており、期待通りの研究成果をあげている。
	診療	S	・外傷再建分野における高度専門医療・研究基盤の強化に寄与している。また地域社会に対しても超高齢化社会に向けて、貢献しており大いに今後が期待される。
東白川整形外科アカデミー	研究	S	・中山間地域における本講座の研究活動の意義は大変に大きく、大いに地域社会への貢献に繋がっている。
	診療	S	・症例数、手術数の限られた地域の中、入院患者数・外来患者数・手術件数において前年を上回っており設置目的に沿った診療活動がされている。
多発性硬化症治療学講座	教育	A	・医学部・保健科学部学生、研修医、更には脳神経内科医、眼科医、小児科医、放射線科医等幅広い教育活動により、本学・地域社会貢献へ繋がっている。
	研究	S	・論文及び学会発表など外部への公表について、適切に行われている。特に、これまで別々だった診断基準を一つの基準で診断できる基準の改定に関する論文は、相当数引用されており、学術的な貢献が高いといえる。
	診療	A	・web を活用した遠隔診療やメールを介したコンサルテーション等は画期的である。
先端地域生活習慣病治療学講座	教育	S	・慢性腎臓病疾患啓発、骨粗鬆症疾患啓発、禁煙授業のための動画コンテンツ完成等、地域社会貢献度は抜群である。
	研究	A	・他に類を見ない新しい薬理機序の治療薬の創薬等そのインパクトは多大である。
	診療	S	・相双地区の透析難民問題がほぼ解決に至った、というくらい貢献度は高い。
エピゲノム分子医学研究講座	研究	A	・エピゲノム分子機構の解明を通じて、本学における研究推進、人材育成等に貢献するほか、地域医療の現場に直結する課題を対象としているため、将来的に地域への還元につながる事が期待される。
救急・生体侵襲制御学講座	教育	S	・初期・後期研修医、看護師ほか多職種に対して、救急・集中治療における講義を行うなど、ニーズに沿った適切な教育活動が展開されている。
	研究	A	・研究的な視点で臨床業務を行いながら、研究に必要なレジストリへの登録、外部への発信を行い、本学へ貢献しているとともに、救急・集中治療にあたる臨床業務自体が地域社会の安心感の醸成に寄与している。
	診療	S	・本来二次救急病院であるものの、救急搬送数も増加しており、三次救急相当の重症者診療も十分行われている。
いわせ総合診療アカデミー	教育	S	・学生教育の成果が専門医育成へと繋がっており、他地域における総合診療医育成の見本となっている。
	研究	A	・臨床研究の推進により、大学の研究力等の向上に寄与するとともに、地域医療の質の向上及び住民の健康増進に貢献している。
	診療	S	・診療面において目標値をクリアし、更に研究面での課題から教員増員も見込まれ、診療実績の向上が伺える。

低侵襲腫瘍制御学講座	研究	A	・多数の論文執筆により本学へ貢献し、また福島県内のがん拠点病院の統合データ作成により地域社会へ貢献できている。
地域産婦人科支援講座	教育	S	・長年の教育実績が既に地域に根づいている。本活動が、地域の産婦人科医療体制の充実に寄与し、更に産婦人科医の増加につながることを期待する。
	研究	B	・データ解析等の研究活動は着実に進められており、本学に一定の寄与が認められるが、外部への成果発信が乏しいため、今後の研究活動の発展が期待される。
	診療	S	・寄附目的に沿った適切な診療活動が展開され、ニーズが高い里帰り分娩の受入れをはじめ、参加・婦人科診療活動が活発に行われている。
糖尿病内分泌代謝内科・総合内科学講座	教育	S	・設置目的に沿い、研修医等に対し適切な教育活動が展開されており、特に地域医療に従事する医師及び院内医療従事者等に対する教育は、多岐にわたり期待以上の効果を上げている。
	研究	S	・糖尿病内分泌代謝疾患合併症や、福島県の地域固有感染症に関する研究の基盤を作るなど、寄附目的に沿った優れた研究活動が展開されており、期待以上の研究成果を上げている。
	診療	S	・総合診療科とも連携し、糖尿病内分泌代謝疾患の専門医療に加え、その他の内科的疾患領域の診療も行っており、その貢献度は多大である。
地域婦人科腫瘍学講座	教育	A	・女性医師の支援体制を構築するなど、婦人科診療の質の向上に向けた教育活動が展開されており、期待どおりの成果を上げている。
	研究	A	・臨床研究の推進により、大学の研究力等の向上に寄与するとともに、地域医療の質の向上及び住民の健康増進に貢献している。
	診療	A	・県中地区において、婦人科腫瘍専門医を配置し、医療体制を整備することにより、地域医療に貢献するとともに、院内の協力体制の連携により、診療の質の向上にもつながっている。
生体機能イメージング講座	教育	A	・PETを用いた教育活動を通じて、本学における情報共有に寄与するとともに、地域医療の人材育成に貢献している。
	研究	A	・県内では数少ないPETを主体とする新たな診療に関して適切な研究活動が展開されており、期待どおりの研究成果を上げている。
地域支援視機能再建学講座	教育	A	・研修医への指導や医学部及び看護学校生への講義など、寄附者及び医大講座への貢献を通じ、ニーズに沿った適切な教育活動が展開されている。
	研究	A	・臨床研究の推進により、大学の研究力等の向上に寄与するとともに、地域医療の質の向上及び住民の健康増進に貢献している。
	診療	S	・いわき地区での視機能再建として高度な手術加療を実施し、いわき地域における視機能の高度医療中核拠点としての役割を果たしている
こころと脳の医学講座	教育	A	・複数の大学における学生、研修医等や地域病院における職員など、幅広い対象者に対して、それぞれニーズに沿った適切な教育活動がなされている。
	研究	A	・科学的な精神医療の実現に向けて先駆的な研究を推進しており、多数の論文を公表するなど、期待どおりの研究成果を上げている。
	診療	S	・精神科医療が不足している郡山、三春地区での診療活動により、地域医療に貢献するとともに、院内診療の質の向上にもつながっている。

基盤連携型医療サービス共創学講座	教育	A	・地域医療におけるデジタル技術への活用推進など、寄附目的に沿った教育活動が展開されており、一定の効果を上げている。
	研究	S	・設置目的に沿って、今後の地域医療に欠かせないデジタル技術活用など、様々な研究活動が展開されており、期待以上の成果を上げている。
	診療	S	・主たる活動地域である会津医療圏における診療活動を通じて、医療 DX のモデル構築等により本学の医療発展に貢献するとともに、医療機関の診療体制の支援により地域医療の維持に寄与している。
脊椎脊髄外科アカデミー	研究	A	・現場で得られた臨床課題を学術的に検討し、国内外に発信することにより、本学の研究活動の発展に寄与するとともに、研究活動を通じて、いわき市を中心とした浜通りにおける医療水準の向上に貢献している。
	診療	S	・脊椎脊髄外科専門医が不足している浜通りにおいて、専門医を配置し、医療体制を整備することにより、地域医療に貢献するとともに、院内診療の質の向上にもつながっている。
スポーツ医学講座	教育	S	・若手医師、理学療法士、学生への指導など、寄附者及び医大講座への貢献を通じ、ニーズに沿った適切な教育活動が展開されている。
	研究	A	・当初の研究計画に基づき、臨床的研究活動が行われ、活動内容を外部に公表するなど成果を上げている。
	診療	A	・学童野球障害検診や高野連のメディカル・サポート、ゲームドクターとしての診療活動など、寄附目的に沿った適切な診療活動が展開されており、期待どおりの成果を上げている。
先進統合脈管学講座	教育	S	・本講座開設により、大学病院の負担軽減や本来の高度治療の集中化につながっているほか、地域医療の人材育成に貢献している。
	研究	A	・研究の遅れを回復するため、今後、連携アプリの進行を加速させるなど研究の進捗状況を検証している。
	診療	S	・腹部大動脈におけるステントグラフト治療実施施設に認定されるなど、設置計画に沿った診療活動が展開されている。

3 評価に対する講座の対応

評価者より出された助言等を今後の活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。助言等に対する各講座の主な対応策等は、以下のとおりです。

<周産期・小児地域医療支援講座>

- ・今後も寄付講座の研究計画に沿った活動を継続し、地域医療の質向上に貢献するよう努める。
- ・引き続き産婦人科医および小児科医育成のためのプログラムの開発に努める。
- ・研究活動の成果を論文等に繋げるよう努める。

<癌集学的治療地域支援講座>

- ・癌診療における地域のニーズへの還元を意識しながら研究を推進するとともに、得られた研究成果について、特許権取得や事業化の可能性も含めた社会実装を視野に入れて取り組んでいく。
- ・今後も、研究成果を英文原著論文や学会発表等を通じて積極的に発信していく。
- ・STING 関連の研究についても、これまでに得られた成果を取りまとめ、論文化・公表につなげられるように取り組んでいく。

<アスタチン核種治療研究講座>

- ・特許申請のみならず、研究成果の論文化など、適切な時期に對外発表できるよう努める。
- ・引き続き、研究活動を通じて、本学と地域社会の発展に貢献していく。

<地域先端循環器病治療学講座>

- ・今後は、セミナーに加えて院内レクチャー、体力測定会、住民向け講座等にもアンケートや参加者数、資格取得者数などの指標を可能な範囲で設定し、教育効果を継続的に検証して内容改善につなげる。
- ・研究成果を診療・教育・地域連携へ還元し、循環器疾患の予防、早期発見、再増悪予防および診療の質向上につなげるとともに、地域の課題を研究課題として取り上げ、成果を地域社会へ還元する循環を強化する。
- ・南相馬市立総合病院と大学病院の橋渡し機能をさらに強化し、高度医療が必要な患者の円滑な紹介と、治療後の地域での継続診療を推進していく。

<外傷再建学講座>

- ・福島県の整形外傷治療のレベルを上げるべく、整形外傷の専門医を増やすよう尽力していく。
- ・近年研究成果は医大が中心となっているが、会津での治療症例を合わせて症例数を増やしていくなど、お互い連携していきたい。

・人員不足は深刻だが、医大と連携して若手整形外科医を育成し、最終的には福島県全体の治療レベルが上がるよう尽力していく。

<加齢性眼疾患治療学講座>

- ・地域医療に則した研究を充実させるべく努力していく。
- ・県内並びに被災地においても診療、研究活動を広げるよう努力していく。

<地域集学的がん治療学研究講座>

- ・今後は、会津地域におけるがん診療に関する臨床データの集積を継続し、学会発表・論文文化を積極的に進めていく。
- ・CGP 検査開始後はゲノム情報を含む診療データの蓄積・解析を行い、会津地域におけるがん診療の特徴や課題を明らかにし、研究成果として国内外へ発信していく。

<地域包括的癌診療研究講座>

- ・今回のご評価は今後の担当講座に引き継ぐ。

<災害医療支援講座>

- ・医師のみならずコメディカル向け、地域住民向け等の地域のニーズに沿った研修や勉強会を引き続き実施する。
- ・今後も研究活動及び研究成果の公表を通して、浜通りの医療の現状や課題を広く周知することで、県内の地域医療の再生、充実に寄与する。
- ・今後も診察を通して自らの勤務する地域における受療動向及び住民のニーズを分析し、ニーズに合った診療活動を継続していく。

<地域救急医療支援講座>

- ・地域の救急医療を担う人材育成を進め、地域貢献を一層推進していく。
- ・研究成果を福島市の地域救急医療へ還元し、さらなる質の向上を目指していく。
- ・地域医療機関とのさらなる連携を深め、持続可能な救急体制維持に貢献していく。
- ・救急搬送困難事案の減少、ならびに下り搬送システムの実装をめざし、地域救急体制の強化を進めていく。

<白河総合診療アカデミー>

- ・初期研修医・専攻医・医学生だけでなく、院内の多職種への教育活動を通して、院内の診療レベルの向上に努め、また、魅力ある診療科として人材確保に努める。
- ・白河市との共同プロジェクトから得られた知見を地域に還元することで、住民の健康増進への貢献を図っていく。
- ・量・質ともに優れた研究成果を発信し、地域や医療に貢献できるよう引き続き研鑽する。
- ・福島医大と連携を取りながら、医師少数地域である県南二次医療圏で「救急から看取り」までの総合診療を行い、救急、病棟、外来、在宅の各領域において質の向上を目指していくことで、地域社会への貢献を続けていきたい。

<心臓調律制御医学講座>

- ・教育成果について、アンケート等を用いた評価・検証方法を明記し、より客観的に成果を示せるよう改善していく。
- ・今後も研究成果を地域医療へ還元できるよう取り組んでいく。
- ・高い評価をいただいた活動について継続して進めていく。

<アートセラピー研究講座>

- ・引き続き学会や論文での発表を含めて本学広報から研究成果を学内外に発信していく。
- ・デジタル画像 ArtTech View 鑑賞について、自然を題材とした作品のみならず、抽象画など解釈が困難な作品の鑑賞も加える予定であり、将来は、介護施設などでデジタル画像の鑑賞を行った際の被験者の反応も調べていく。

<外傷学講座>

- ・引き続き、外傷セミナーの開催や毎週の症例検討会、看護師・看護学生・研修医を対象とした勉強会などを通じて、後進の育成と外傷診療のさらなる発展に努めていく。
- ・今後も学会発表に加え、和文・英文論文や著書として研究成果を積極的に発信するとともに、研究成果の論文化をさらに推進していく。
- ・急性期外傷、難治性骨折、関節再建を3本柱として、専門性の高い診療を提供し、引き続き地域医療に貢献していく。

<東白川整形外科アカデミー>

- ・毎年配置される医師が交替になるが、それぞれの臨床経験、専門性や興味を抱く分野に合わせて柔軟に毎年の研究計画を立案し、学会発表を経て論文化する工程が樹立できてきていると考えている。
- ・高齢化の進む地域性と、毎年交替で派遣されるのが若手医師であることを前提に、この地域で継続できる研究課題について引き続き指導していきたい
- ・常勤医2名体制を維持することで、一般的な整形外科疾患に対する医療（入院、手術）とともに、非常勤医による様々な専門領域診療の提供を継続したい。

<多発性硬化症治療学講座>

- ・学生、医療関係者、専門家向けの教育活動を続けるとともに、今後は地域住民向けの医療講演会等の機会を増やしていく。
- ・研究成果を通じて神経免疫疾患の実臨床に良い影響を与えるよう研究を続けていく。
- ・今後も多発性硬化症、視神経脊髄炎および関連疾患を中心に専門診療を継続していく。
- ・福島県内の神経免疫疾患診療に貢献し、遠隔地についてもwebコンサルテーションで対応していく。

<先端地域生活習慣病治療学講座>

- ・引き続き精進していく。
- ・指摘された事項について来年は改善していく。

<エピゲノム分子医学研究講座>

- ・これまでの成果をしっかりと論文として形にできるよう、着実に進めていく。
- ・今後も当初の計画を大切にしながら、基礎研究の成果をしっかりと臨床へ繋げられるよう研究を進めていく。
- ・今後は、専門外の方にも「この研究がどう地域医療に役立つのか」が直感的に伝わるよう、表現や見せ方を工夫していきたい。

<救急・生体侵襲制御学講座>

- ・多職種連携を強化し、職種に関係なく、現場からのニーズに合わせての教育を進める。
- ・引き続き、研修医、他科の医師、看護師、薬剤師、救命士などの教育に邁進し、多職種連携をすすめ、福島県への医師、他職種の人材確保に繋げる。
- ・学会発表、症例報告などは行っているが、レジストリ研究を中心とした原著論文文化をめざす。
- ・福島県立医科大学の当講座職員が県中・県南の救急医療を支えている自覚をもち、地域貢献していく。

<いわせ総合診療アカデミー>

- ・喫緊の課題として専攻医のリクルートと充実した専攻医教育環境の拡充を挙げているので、鋭意進めていく。また、地域医療の重要性と魅力を伝えられるよう引き続き努力していく。
- ・本県、本学、当アカデミーだからこそ学べる総合診療を伝え、後進の育成につなげるべく努力していく。

<低侵襲腫瘍制御学講座>

- ・地域医療において、特に消化器外科の重要性が社会的にも再認識されつつあるため、魅力的な発信ができるよう継続していく。
- ・基本計画は外さないようにしつつも、修正すべき点は軌道修正し、また時代の進歩に伴って新たな着眼点が生じれば研究範囲も拡張しつつ柔軟に進めていく。

<地域産婦人科支援講座>

- ・研究活動にかかる評価を真摯に受け止め、データの取りまとめに取り組んでいく。
- ・これからも可能な限り啓発活動を続けていく。
- ・子宮頸がんはなくすことができるがんであり、子宮頸がん検診と HPV ワクチンの重要性を引き続き説いていく。

<糖尿病内分泌代謝内科・総合内科学講座>

- ・今後も学生・医療従事者への教育を通じ、本学の人材育成と地域医療の質向上に貢献していく。
- ・今後も寄附目的に沿った研究を発展させ、国内外への成果発信と地域医療への還元を一層推進していく。
- ・今後も専門診療と幅広い内科診療を両立し、地域のニーズに応える質の高い診療を継続していく。
- ・専門診療の地域への周知と人材育成を進め、地域医療機関との連携をさらに強化していく。

<地域婦人科腫瘍学講座>

- ・婦人科癌診療は急激な進歩の時期にある。拠点病院を整備するためには、教育・育成が大切であり、継続していく。
- ・女性医師あつての婦人科医療と考える。助け合いながらさらにレベルをあげていく。

<生体機能イメージング講座>

- ・引き続き、医大との学術交流・情報共有および地域連携セミナーなどを通して、地域医療を支える材育成に貢献していく。
- ・今後も様々な視点から研究セミナー、勉強会を企画し、放射線関係の基礎知識の共有、新たな研究開発、最新の医療をすみやかに県民に届けられるよう努める。
- ・今後も県立医大と連携を強化し、先進的なPET検査や核医学治療などを通して県内の認知症診療及びがん診療に尽力していく。

<地域支援視機能再建学講座>

- ・初期研修医、看護学生、コメディカルに対して、講義を中心とした教育活動を継続して行っていく。
- ・臨床と、研究のお互いのフィードバックを継続することで、地域医療の向上に貢献できるよう、努力継続する。
- ・病診連携を重要視し、臨床所見やその結果を国内外に発信できるよう、日々の診療を安全に確実に行う。
- ・引き続き病診連携を中心とした外来診療を行い、高度な外来および手術加療の継続を行い、地域診療のレベルの向上を図る。結果として視機能向上、患者満足度等を上げられるよう尽力継続する。

<こころと脳の医学講座>

- ・今後も同様の精神科教育及び研究を継続していく。
- ・今後も福島県の精神科医療の充実に心がけていく。

<基盤連携型医療サービス共創学講座>

- ・定期的な教育活動、効果の検証を継続していく。

- ・今後も種々のリモート医療を実践するよう、関係者との連携を深めていく。
- ・基幹病院への貢献ならびに病診連携における医療 DX を重視して取り組んでいく。
- ・会津医療圏にとどまらず、講座活動によって得られた知見を全県に横展開できるように努める。

＜脊椎脊髄外科アカデミー＞

- ・大学病院や関連施設との連携を図り、研究活動を継続するとともに、研究成果の発信を通じて地域医療の発展に貢献していく。
- ・今後も専門的な診療体制を維持・充実させ、浜通り地域の医療の維持・確保に努めていく。

＜スポーツ医学講座＞

- ・小・中・高校生が属するスポーツ指導者に対する啓蒙を進めていく。
- ・今後も継続できるように努力していく。

＜先進統合脈管学講座＞

- ・今後も、講座の設立目的に沿ってプロジェクトを進めそれに沿った教育・啓蒙活動を実施していく。
- ・地域連携システム（県北あし守ネット）が構築開始となるに合わせてさらに診療範囲は広がると予想している。
- ・大学における末梢動脈、静脈、リンパなど脈管学の分野は本講座の診療活動にて保管され、地域医療の充実に今後もつなげていく。